

国史跡安徳台遺跡保存活用計画パブリックコメント(意見及び回答)

番号	意見	回答
①	活動団体一覧にある団体名と活動内容の訂正について	訂正しました。
②	本計画の担当部署はどこか教えてほしい。	本計画の担当部署は文化振興課です。
③	営農の現状分析と地権者の営農に対する考え方を調査する必要があるのではないか。	聞き取り等を実施し、計画に反映させております。
④	今後の公有化計画については、一括は難しくても部分的(段階的)に進める必要があるのではないか。	本史跡を確実に保存管理するために、活用・整備などを視野に入れ、他事業とのバランスと中長期的な財政状況等も考慮し、計画的、効果的、段階的に公有化を実施することを検討する必要があると考えております。
⑤	長期的なスタンスで臨まなければならない、今後の広報活動で理解を求めていく必要がある。また、スマートフォンを活用し、QRコードやテレビ・ラジオ・YouTube・SNSを使用していく必要があると思う。さらに、スマートフォンを利用したデジタルスタンプラリーやプッシュ通知なども良いと思います。そして、広報戦略としてはまず、子どもをお持ちの家族に対して、学校や幼稚園、保育園を通じて行っていくことが良いと考えます。	ご意見につきましては、計画の中に加筆させていただきます。また、来訪コンテンツの充実と各種メディアによる情報発信を行いながら、多様なユーザーの来訪を促していきたいと考えております。
⑥	市として、施策としての優先順位を上げるべきでないか。他地区遺跡(他市町村)との相対評価を云々するより、トップ自らの積極的な推進をお願いしたい。10年間の計画となっているが、迅速に具体的なテーマ課題につき作業レベルに落とし込み実行すべきだ。(できることから、迅速に実行すべきだ。)※地権者の高齢化もあり	本史跡の保存活用については、他事業とのバランス、中長期的な財政状況等も考慮しながら事業を進めていきたいと考えております。また、本計画に基づいて、地権者及び地元と協議を進めていきたいと考えております。
⑦	「安徳台遺跡は、未来世代に伝え、護るべき、かけがえのないまちのたから」という価値観を醸成していくことです。このことが、本計画の施行にあたって求められている課題です。糸島市、宗像市、福津市、大牟田市の事例を参考に那珂川市でも取り組んでほしい。 本計画は、単なる史跡の保存活用計画にとどまらず、まちづくりという視点でビジョンを形成していくことが求められます。まちづくりは市民参画の下で具体的に展開されなければなりません。安徳台遺跡は「まちのたから」というわかりやすく、共感を得るフレーズで市民に語りかけ、まちのたからというコンセンサスを醸成しながら、ビジョンを共有していくことが望まれます。 市民団体が存在しているので、まずは構成メンバーに若い世代を含めた新しい仲間を取り組んでいくことは重要だと思います。	貴重なご意見として、参考にさせていただきます。また、本計画の『「保全と再生と創出」がうみだす史跡と人との好循環』の基本理念に基づき、本史跡に関わる人(担い手)が増えていくことを目指していきたいと考えております。
⑧	予算について書かれていませんが、文化庁からの補助金(R2、R3年度)をどのように運営に活用するか記入すべきではないでしょうか。また、第11章に予算が書かれていませんが、記入するほうが分かりやすいです。また、10年の計画として運営できるのか判断しやすいたと思います。	令和2・3年度の文化庁からの補助金は、計画策定委員会の費用や業務委託等の計画策定のための費用として活用しております。「国史跡安徳台遺跡保存活用計画」(以下、「本計画」という)の中で補助金については、今後の事業展開において、国・県等の補助制度の活用が必要不可欠であるとの認識は持っており、各種制度の活用を積極的に図っていくように考えております。また、「本計画」においては、今後の安徳台遺跡の保存・活用についての基本的な方針を取りまとめております。策定後は本計画に基づいて事業の計画及び予算を確保して実施していくこととなるため、現時点での予算についての表記はいたしておりません。
⑨	エコミュージアムの基本概念に示されている「コア」「サテライト」構想になぞらえて考えると日本の歴史が俯瞰できる安徳エリアというコアがあって、安徳台遺跡・安徳大塚古墳・安徳原田遺跡群・裂田溝というサテライト構成が「まちのたから」だと思われそうです。安徳台遺跡の単独ではなく、安徳エリアの歴史の重層性(歴史的な価値)が那珂川市のシビックプライドとなり得ますので、保存活用にあたっては、これらの要素を反映された計画立案を期待します。	ご意見を踏まえ、安徳台遺跡の保存活用については、安徳台遺跡の周辺のエリアの持つ歴史重層性も視野に入れながら進めていくように考えています。
⑩	初期段階として既存団体を中心とした史跡ガイドの育成や活動範囲の拡大等の対応を行いスタッフの自発的参加の機運を醸成していく流れを作っていく…とあります。延べ29回のガイドの経験からガイドの活動の「やる気」「活性化」するための事案を提案します。	ご意見については、今後の活用・整備の中で検討するとともに、既存団体との連携強化を図っていききたいと考えております。
⑪	「歴史ガイドボランティアなかがわ」について、安徳台遺跡でのこれまでの活動をふまえて、計画の中で位置づけをしっかりと明記してほしい。 また、第9章 9-1.(1)7行目に「史跡ガイドの育成や活動範囲の拡大等の対応を行い」とありますが、文化振興課が何をしたいのか。この件について回答をいただきたい。 歴史ガイドボランティアなかがわは新人の育成もしっかりと行っていますし、活動範囲も那珂川市の全域のガイドも行っていきます。この文章が歴史ガイドボランティアなかがわを指しているのなら憤慨ものです。文化振興課が単独か、もしくは新たに他の団体とそのような取り組みをしたいのなら自由にやっていただいて構いません。とにかくこの文章の意味するものは何なのか教えていただきたい。	「歴史ガイドボランティアなかがわ」の活動については、第4章4-2の現状と課題で整理させていただきます。 安徳台遺跡に関わる団体については、本計画に基づく保存活用の主旨に賛同していただける団体を広く対象として考えていきたいため、特定の団体名を表示するのではなく、「第2章(8)活動団体でまとめた既存団体など」といった表現に修正します。 また、第9章9-1 7行目は既存団体の活動を否定するものではなく、今後の安徳台遺跡の維持管理や活用のためのスタッフへの自発的参加の機運を醸成していく流れを作っていくと考えており、その中で、個人レベルでの参加の機会を拡大するために、既存団体との連携として、史跡ガイドとしての育成や竹林整備への参加といった既存団体の活動範囲の拡大等の対応が可能であると考えています。
⑫	③文化財を「育む」ひとつくり 市民の認知度を高めるため、小学校等の教育機関やボランティアガイドと連携して、歴史の学習と絡めた社会科見学ツアーを催行し、これからの若い世代に伝えていく体制を作っていく。	ご意見につきましては、小学校や関係機関等との連携を図りながら、学校・社会教育の部分で史跡の活用を図っていきながら、次世代への史跡の継承を行っていかれればと考えています。
⑬	周辺市町村と連携をすることはとても重要なため、マイクロバスなどで観光客が回れるようなプチ遺跡めぐりコースを作成する。	ご意見につきましては、今後の活用の際に、来訪コンテンツの充実の中で検討していきたいと考えております。
⑭	食に関しては訪れた人は興味がある一つなので、実施していくべきと思います。見栄えのよいものはとても好まれるのでSNS等で取り上げられるように商品開発をしていければと思います。	ご意見ありがとうございます。
⑮	本史跡に対する認知度については当然高める必要があるが、市民の趣味嗜好は多角的で、共通するテーマとして公園化の要素を高める必要があるのではないか。	来訪コンテンツの充実と各種メディアによる情報発信を行いながら、多様なユーザーの来訪を促していくとともに、史跡としての整備とあわせて来訪者が安全・安心に史跡地内で過ごせるような安全性を確保した整備も必要と考えております。

⑯	<p>史跡をテーマにした商品開発について アイデアは良いと思いますが、実現までに時間がかかりそうなので、まずは、那珂川市でとれた農産物を学校給食で使ってはいかがでしょうか。 安徳台は孤立したのではなく、周辺の川、田畑とつながっているのです、周辺でとれた米、野菜、果物等を年に1回でも使えば子ども達は、食べて知ること食文化の継承だけでなく歴史も、次の世代につなぐことができます。また、営農の継続にもつながります。</p>	<p>那珂川市ではすでに市内でとれた農産物を学校給食で使用しておりますが、史跡と食と結びつけるところまでには至っていないのが現状です。ご意見を参考に、今後の活用の中で、関係部局と連携を図っていきたくと考えております。</p>
⑰	<p>那珂川市以外の近隣の市の小学校からも、新幹線を利用して来てもらい、新幹線の乗車体験セットにするなど、付加価値を付けて那珂川市を訪れてもらうきっかけにし、「新幹線でこれるまち」でありながら、自然豊かで歴史のある文化財が豊富であるという対照的なイメージを合体させることで、那珂川市という土地自体が印象に残るようにしてはどうか。</p> <p>学校社会教育との連携について、小学校の生活科、社会科、中学校の社会科で那珂川市の史跡について学習してはいかがでしょう。これまでホームページに公開されたデータを使えば10分程度の授業の資料は作ることができると思います。</p> <p>「史跡地により多くの来訪者を呼びこむため活用」の部分で、人を呼び込むことは、「民間企業の事業ベースによる収益性を伴うコンテンツ資金調達の仕組みを導入する」とある。事業ベースで収益を上げるには、より多くの観光客が集客環境が前提である。①大型バスを誘導できる道路の整備②駐車場整備③商業施設を構える。④産直品店舗をつくり(米・野菜など)を売る。米はブランド化できるが、ミカンは特産品になれないのでは。</p>	<p>ご意見につきましては、本計画に基づいて、今後の活用・整備の際に中で参考にさせていただきますと考えております。</p>
⑱	<p>庁内検討委員会で検討されていると思いますが、安徳台遺跡を観光面に大いに役立てていくということが絶対に必要だと考えます。この観光面については市民や各団体の意見も必要ですが那珂川市の職員で構成されている庁内検討委員会も自分たちの市の歴史関連史跡等を観光面にどのようにいかしていくのかのビジョンを責任もって発表していただきたい。</p>	<p>本計画に基づいて、関係部局と協議を進めていきたくと考えております。</p>
⑲	<p>現在、展望所や遊歩道の設置がすすめられているとのこと。地域の自主活動と思いますが、保存活用計画との整合性を踏まえた上での取り組みが、その後の齟齬を防ぎます。そのために協議の場の設定が急務だと思います。</p>	<p>協議の場合は、(仮称)管理運営協議会を想定し、計画策定後の設立を検討しております。</p>
⑳	<p>今後の発掘作業についてスケジュール等も含め、当然その計画をしっかりと入れるべきです。詳しく発掘されたら、安徳台遺跡の複合遺跡としての価値をかなり高めることとなります。よって今からでも、遅いと考えますが、発掘作業のスケジュールを早急に出していただきたい。</p> <p>完全な公有化ができないならば、重要発掘場所を選定し、借地契約等で発掘作業の着工を早める等の検討はできないでしょうか。安徳台の全面を一括して発掘はできなくても、重要と思われる場所から始めることはできるのではないのでしょうか。 安徳台を発掘すれば、双国の謎が解明され、日本史が変わるという先生もおられます。</p>	<p>「本計画」においては、今後の安徳台遺跡の保存・活用についての基本的な方針を取りまとめております。そのため、具体的なスケジュールについては記載しておりません。発掘調査については、今後も遺構の性格・規模及び配置や遺構の残存状況等を確認するための調査研究、史跡の全容解明に向けた調査研究を進めていくことが必要であり、今後の保存管理・活用・整備の中で検討していきたくと考えております。</p>
㉑	<p>営農者の営農行為以外の植生管理については、市として補助金等支援すべきだ。特に、斜面地について。</p> <p>昭和35年～40年頃は、ミカン栽培農家が15戸位にありましたが、41年～42年頃、ミカン価格が暴落で一戸、二戸と栽培を止め、他産業に付いたり、子供は他に就職し、現在ではミカンを作っているものは5戸位で、みな兼業です。</p> <p>安徳台が歴史的に貴重な遺産であることは理解いたしますが、今では負担なものになりつつあります。指定でなければ他に売却したり、太陽光発電などに利用があったと考えます。五ヶ山ダムの移転先にと申し出ましたが、史跡地ということで却下されました。</p> <p>現在では、老人が主に管理しています。今のままですと、収益は上がらず、草刈耕起には機械の消耗、油代、労力など負担になっています。老人は弱ってゆきます。</p> <p>市に置かれましては、管理費支払いなど、早い時期の買収をして頂かないと、農家にとっては、迷惑以外の何者にもなりません。</p> <p>今後10年間、又それ以上買収がされないということは、大部分の農家は無収入で管理費用ばかり掛かり、負担に耐え切れません。</p>	<p>土地所有及び営農者等の営農行為以外の植生管理への活動助成につきましては、市の財政状況も踏まえ、国や県の補助等の活用も含め検討を進めたいと考えております。</p>
㉒	<p>庁内の体制強化について、文化振興課職員の通常業務の範疇を超えた事業に従事することは難しいと予見される。事業全般を推進する中心人材として外部人材を登用すること今後検討を実施していく。と記述されています。これは現状の文化振興課の人材では対応できないと言っていることと同じではないか。本気で安徳台遺跡を整備する気があるならば、早急に取りまとめができる人を選定し、確保すべきではないか。</p>	<p>通常業務の範疇を超えた業務についての外部人材方法の考え方を提案しています。整備については、文化振興課が中心となり庁内連携を図りながら進めていきます。</p>
㉓	<p>市内の歴史三団体を活用すること、文化振興課が中心になって参画機会を創出してリーダーシップを発揮すること。案内板の説明の統一、資料館の創設、多くの市民の声が大事と考えます。</p>	<p>ご意見につきましては、那珂川市の文化財保護行政へのご意見として参考にさせていただきます。</p>
㉔	<p>広大な面積(約23ha)に対し、史跡エリアとその他のエリアをゾーニングして多目的活用をめざし、公園として市民の憩いの場とする。</p> <p>発掘調査の様子を見れる機会は希少なため、近くで見学できるように整備し、レプリカを使った発掘体験など、見るだけでなく体験型のイベントもツアーに組み込む。</p> <p>今後の活用や、イベント等更に具体的な案が上がることを期待しています。 例)駐車場候補地、遊歩道ルート(幅員、形状、材質)、イベント会場案(工作物案)、誘導サイン、解説看板の形状、文言、イベント案(弥生時代体験キャンプ、青空シンポジウム、演劇、音楽イベント)</p> <p>整備も早急に対応しなければならないもと、中長期的な立場で整備するものに分かれると思います。現実ガイドして痛感し、即設置を要望する。サインの整備や遺構の復元。</p> <p>安徳台遺跡公園の拠点と公園化の環境整備 ①安徳大塚古墳とつなぐ史跡公園化事業とし、安徳ライスセンター辺りに事業拠点を置く。安徳台単体事業で推進の場合は、旧安徳公民館から原口の中溝沿域に駐車場を置く。単体では、事業投資が拡大するので、連結が望ましい。 ②史跡公園の周りの山林の整備。防災防犯を考慮して整備。 ③投資を抑え安徳大塚古墳と総合的開発を行うことが効果的である。</p> <p>安徳台・安徳大塚古墳と裂田溝を含めた総合的な遺跡活用を行う。</p>	<p>今後の整備基本計画等の策定の際の参考とさせていただきます。</p>
㉕	<p>本計画中に記載している、安徳天皇、裂田溝、亀島、現人神社、岩門城、磐瀬宮、御迎等に関するご意見</p>	<p>ご意見につきましては、修正が必要なものは修正を行うとともに、那珂川市の文化財保護行政へのご意見として参考にさせていただきます。また、本計画中に記載している各史跡については、本計画の資料編で参考文献をまとめる際に、関連遺跡についての参考文献も整理しております。</p>

<p>②⑥</p>	<p>「ガラス製の勾玉3個(うち1つはガラス璧片の再加工)」を「古代中国製の勾玉3個のうち1つは古代中国の玉器の璧を再加工したもので日本での出土例は三雲南小路遺跡と須玖岡本遺跡と合わせて3例しかない。このことからこの墳墓の甕棺の被葬者が奴国の中でも特別な存在であったと考えられる。」と加筆してはどうか。また、「安徳台遺跡からは乳幼児棺が発掘されておらず、大人だけの限られた人たちの住む場所である」ということと、「大型住居跡等や首長墓からの副葬品等から考えると弥生時代の安徳台遺跡群は奴国の拠点集落といえども、その中でもかなりの有力集団であったと考えられる。」文章はお任せしますが以上の文言は入れるべき。安徳台遺跡の弥生時代のステータスが上がります。</p>	<p>本史跡の性格については、これまでの調査から現時点では本文記載の内容としております。ご意見については、奴国の中での安徳台遺跡を考えるうえで参考にさせていただきます。</p>
<p>②⑦</p>	<p>「弥生時代の首長墓の南側一帯からは柵列状の遺構が確認されており、その南側には大宰府等の大きな官衙クラスの大型建物があると考えられる。そのことから、岩瀬行宮のかなり有力な比定地と考えられる。」文章はお任せしますが以上の文言も入れるべき。安徳台遺跡の弥生時代のステータスが上がります。また、「1号掘立柱跡の後ろからは飛鳥時代の道も見つかった」も入れる。</p>	<p>ご意見の部分について、これまでの調査で、飛鳥時代の遺構・遺物についての十分な成果が得られているとは言えず、本文記載の内容としております。</p>